

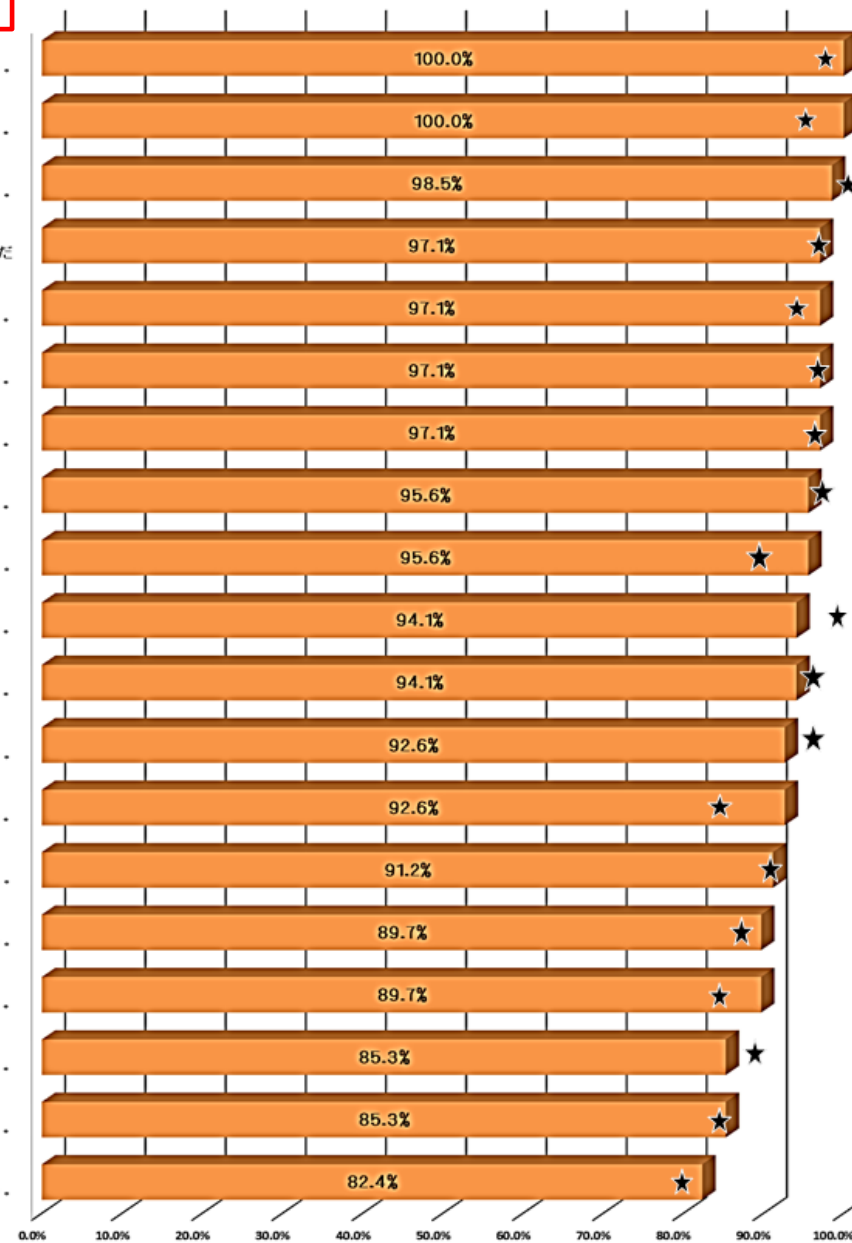


2 学期 学校評価 児童アンケート 集計結果

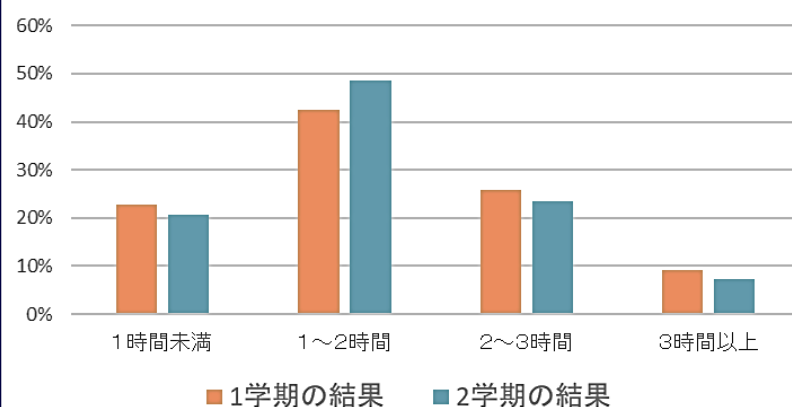
※グラフ中の★印は、1学期の結果をマーキングしました。

先生は、困ったことや相談したいことがあるとき、ちゃんと話を聞いてくれる。	100.0%	★
生活科、総合的な学習の時間に地域の人やものと関わりながら学習できた。	100.0%	★
朝ごはんをしっかり食べている。	98.5%	★
私のクラスはいじめやからかいがあっても「やめろよ」と言えるクラスだ	97.1%	★
地震が発生したとき、どうやって行動すればよいか分かる。	97.1%	★
地域の人に、進んで大きな声であいさつをしている。	97.1%	★
友だちへの言葉遣いに気を付けている。	97.1%	★
道徳で自分の考えを言ったり友達の考えを聞いたりして、さらに深く考えることができた。	95.6%	★
友だちに、進んで大きな声であいさつをしている。	95.6%	★
学校に来るのが楽しい。	94.1%	★
学校の授業がよく分かる。	94.1%	★
困っている人がいると声をかけたり助けたりしている。	92.6%	★
学校にいじめや暴力がない。	92.6%	★
授業で自分の考えを発表したり、友達の考えをしっかりと聞いたりした。	91.2%	★
1日に、家で「学年×10分」以上、読書や勉強をしている。	89.7%	★
我が家のメディアルールを守っている。	89.7%	★
体育の授業や休み時間に体を動かすことが好きだ。	85.3%	★
早寝早起きをしっかりとっている。	85.3%	★
1日3回はみがきをしっかりとっている。	82.4%	★

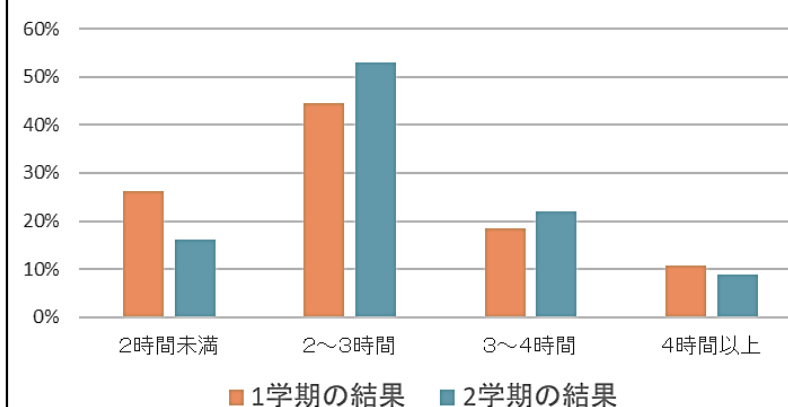
肯定的評価(「はっきりハイ」と「だいたいハイ」の合計)をした児童の割合



平日のメディア時間



休日のメディア時間



今後、取り組んでいきたいこと ～「今、子どもたちに必要なことは何か」を考えて～

3学期は、来年度の教育課程(カリキュラム)の検討する時期となります。
今回のアンケート結果を踏まえ、当校の子どもたちに必要なことは何かを、職員で議論しました。出来ることは3学期からすぐに始めていくと共に、次年度の改善点は何かを探りました。
主な内容をお伝えいたします。

◎「自分の考えを伝える」ことを重視しよう

日々の授業において、自分の意見や考えを表現することを苦手とする子どもが多いと感じられます。課題を把握(インプット)し、自分の考えを言語化する(アウトプット)力を育てることで、創造的に物事を考えたり、問題解決のための新しいアイデアを出したりする能力が高まります。これは、様々な状況で柔軟に対応できることへとつながります。
3学期以降、次の取組を進めていきます。

- ・「キーワードを示す」「担任が言葉を補いながら具体的に話す経験を積む」ことを重点的に取り組む。
- ・言語化する力、コミュニケーション力の向上により、子ども同士の信頼関係の深まりを目指す。
- ・ペアやグループでの伝え合う場の積極的活用を図る。
- ・書く視点を示す等をし、書く意欲や文章化する力も大切にする。

◎「自主学習の一層の充実」を目指そう

自分で学習内容を決めて取り組むことは、自分の興味や関心を探求する力を高めます。「自ら学ぶ楽しさ」を知ることが出来る子どもは、学習意欲を高めることにつながります。自主学習の良さや楽しさを実感することが出来る子どもは、時間管理や計画立案などの自己管理能力を高めます。これは将来の学業や職業生活において非常に重要なスキルです。今後、次のような視点をもとに、出来ることから始めていきます。

- ・「やって良かった」「楽しい」と思えることを大切に、取組を進める。
- ・自主学習のメリットを子どもたちに伝え、取り組むことの価値を伝えていく。
- ・友達や担任、保護者からのフィードバックを大切にする。
- ・「教師から課される内容の宿題」との両立が図られるように配慮する。

◎「主体性」を育てる取組を進めよう

「大人の言うことをしっかりと聞いて行動できる」という側面が子どもに必要なことは否定しません。しかし同時に、「自分(たち)で考え、主体的に行動する」力を育てていく必要があります。自分たちの意見やアイデアが学校生活や普段の生活の中で反映される経験が、子どもたちの「自己効力感」を育てるからです。「自己効力感」とは、何らかの課題に取り組む時に、「自分は対処できる」といった自己イメージが持てることです。それは、学習や生活の様々な場面で積極的に取り組む力となります。今後の教育活動を次のような方向性で見直していきます。

- ・「子どもたちがつくりあげる児童会」を合言葉に、活動の見直しを図る。
- ・委員会の活動を、児童集会や〇〇週間等の取組と関連させて計画していく。
- ・「各委員会がボランティアを募り、活動を進めていく」といった、子どもが「自らの思いや考えを実現させていく」活動を取り入れる。

◎「メディア利用」について継続的に取組を進めよう

メディアの進歩は日々進みます。新しいコミュニケーションツールや情報発信ツールにおいて、今後も技術革新が進むことでしょう。私たち大人は、子どもたちの現状、メディアのメリットとデメリットを十分に理解と把握に努め、子どもたちのより良い成長のために何が必要かを考えていかねばなりません。今後は次のような取組を進めてまいります。学校と家庭で協力体制を継続し、メディアとの「より良い付き合い方」を子どもたちに考えさせていきましょう。

- ・児童主体のメディアコントロール啓発活動を行う。
- ・来年以降、我が家のメディアルールの活用の仕方を工夫する。現在行っている「SNSアンケート」の内容と併せ、内容を再検討する。
- ・中学校区で取り組んでいる「睡眠学習」との関連を持たせ、来年度の学校保健委員会を計画する。親子で「我が家のメディアルール」を作成する活動も検討しく。